

# 講義計画書

(シラバス)

2022 年度

第 31 期生

【1 年次】



宮本看護専門学校

学籍番号

氏名

<b>基礎分野</b>	科学的思考の基盤	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	論理学	単位数	1単位	飯嶋 明彦(15)
		時間数	15時間 (試験含む)	
<b>科目全体のねらい・到達目標</b> 1. 物事を論理的に考察し、客観的に評価できるような、物の見方、考え方、表現力、伝達能力を養う 2. レポートや論文を書く際の基本的法則を学び、それを実践することにより、論理的に思考する能力を養い、文章や口頭でそれを表現することができるようにする				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	論理的とはどういうことか		講義・演習	飯嶋
2	論点を見つける方法を学ぶ ワークシート		講義・演習	
3	三段論法について学ぶ ワークシート		講義・演習	
4	帰納法について学ぶ ワークシート		講義・演習	
5	帰納法について学ぶ ワークシート		講義・演習	
6	作文演習①		演習	
7	作文演習②		演習	
8	筆記試験			
備考				
<b>評価方法</b> 筆記試験80% 個人ワーク20%				
<b>使用するテキスト</b> 配布資料、ワークシート				
<b>参考文献</b> 日本看護協会出版会 「看護学生のための「読む力」「書く力」レッスン BOOK」				

基礎分野	科学的思考の基盤	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	統計学	単位数	1単位	齊藤 具子(15)
		時間数	15時間 (試験含む)	
科目全体のねらい・到達目標				
1. 情報を科学的に整理・分析する方法を学ぶ 2. 医療情報や看護情報を効果的に活用する方法を学ぶ 3. コンピューターを操作し、必要なデータの作成やプレゼンテーションの方法を身につける				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	1. 統計的方法と記述統計(一変量) 1)変数と尺度 2)度数分布表と度数分布図		講義・演習	齋藤
2	2. 統計的方法と記述統計(一変量) 3)代表値(平均値, 中央値, 最頻値)		講義・演習	
3	3. 統計的方法と記述統計(一変量) 4)散布度(範囲, 分散, 標準偏差, 変動係数)		講義・演習	
4	4. 記述統計(二変量) 1)クロス集計表 2)散布図 3)共分散と相関係数		講義・演習	
5	5. 母集団と標本		講義・演習	
6	6. 統計的推定 1)点推定 2)区間推定		講義・演習	
7	7. 統計的仮説検定 1)t検定 2)カイ二乗検定		講義・演習	
8	8. 終講テスト			
備考 個人のPC準備				
評価方法 筆記試験、課題レポート より総合的に評価				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 基礎分野「統計学」、別巻「看護情報学」				
参考文献				

基礎分野	科学的思考の基盤	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
科目名	教育学	単位数	1単位	齊藤 具子(15)
		時間数	15時間(試験含む)	
科目全体のねらい・到達目標 1. 教育学の基礎を学び、自他の成長を促す教育の役割を理解する 2. アンドラゴジーへの視点を学び、教育指導に役立てる				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	教育とは何か 教育の概念、社会の中の看護		講義・演習	齊藤
2	教育を成り立たせるもの 人を教えるということ		講義	
3	かかわりを導く技法 心理学的アプローチ 生活指導のアプローチ		講義・演習	
4	教育による発達の理論 発達理解に根差した患者教育の視点		講義	
5	教育の目標と評価 教育の担い手		講義	
6	現代教育の新たな課題		講義・演習	
7	キャリア教育 ジェンダーとセクシュアリティ ニーズ教育・インクルージヴ教育 生涯教育		講義	
8	筆記試験			
備考				
評価方法 筆記試験 課題レポートから総合的に評価				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 基礎分野「教育学」				
参考文献				

基礎分野	人間と生活・社会の理解	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	倫理学	単位数	1単位	海山 宏之(30)
		時間数	30時間(試験含む)	
科目全体のねらい・到達目標 1. 倫理学の基礎知識(倫理的思考とは)について学ぶ 2. 現代における生命及び医療に関する倫理的な課題を理解する 3. 医療における倫理的判断や行動について協議できる 4. 患者の権利擁護(アドボカシー)をめざした看護師の行動について討議できる				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	倫理学とは		講義	海山
2	事実と規範の違い		講義	
3	情報と倫理		講義	
4	自分とは何か		講義・討議	
5	コミュニケーションと人間		講義・討議	
6	生命倫理学の問題(どこから人間?)		講義・討議	
7	生殖医療		講義	
8	生命倫理の問題(どこまで人間?)		講義・討議	
9	日本人と遺体・安楽死		講義	
10	職業倫理		講義	
11	生命倫理の問題(医学と生命)		講義・討議	
12	死生観と倫理		講義	
13	なぜ人を殺してはいけないのか		講義・討議	
14	生命と環境		講義・討議	
15	まとめ・筆記試験		試験	
備考				
評価方法 筆記試験 課題・グループワーク から総合的に評価				
使用するテキスト ・配布資料				
参考文献 ・医学書院 別巻 看護倫理				

<b>基礎分野</b>	人間の生活・社会の理解	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	心理学	単位数	1単位	常木 暎生(15)
		時間数	15時間(試験含む)	
科目全体のねらい・到達目標 心理学の基礎的理論を学び、人の心と行動を深く理解する基礎的能力を養う				
回	学習内容と成果	方法	担当	
1	心理学とは 感覚と知覚	講義・演習	常木	
2	記憶の働きと発達 忘却の過程と条件、記憶の変化と工夫	講義・演習		
3	心理学における学習とは 学習に関連する諸理論、学習に影響する諸条件	講義・演習		
4	思考の作用と思考力の発達 言語とコミュニケーション	講義・演習		
5	自己とパーソナリティ	講義・演習		
6	知能、人格、性格とは、知能検査、性格検査、 適正検査	講義・演習		
7	心の適応と不適応 心理療法	講義・演習		
8	筆記試験			
備考				
評価方法 筆記試験				
使用するテキスト 有斐閣「心理学・入門」心理学はこんなに面白い 改訂版				
参考文献				

<b>基礎分野</b>	人間の生活・社会の理解	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
科目名	社会学	単位数	1単位	小笠原 尚宏(15)
		時間数	15時間 (試験含む)	
科目全体のねらい・到達目標				
1. 社会学一般の基礎理論・方法を学ぶ				
2. 社会学と保健医療・看護との接点を学ぶ				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	社会学とは 社会学の基礎概念		講義・演習	小笠原
2	保健医療と社会学		講義・演習	
3	健康病気と社会学① 健康病気の新しい捉え方		講義・演習	
4	健康病気と社会学② ストレスとストレス対処		講義・演習	
5	健康病気の社会格差		講義・演習	
6	地域社会と保健医療		講義・演習	
7	ケア論の社会的意味		講義・演習	
8	筆記試験			
備考				
評価方法 筆記試験 課題レポートから総合的に評価				
使用するテキスト 晃洋書房 大学生のための社会学入門				
参考文献				

<b>基礎分野</b>	人間と生活・社会の理解	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	人間関係論	単位数	1単位	正保 春彦(8)
		時間数	15時間	長谷川 恵子(7)
<b>科目全体のねらい・到達目標</b> 1. 人間を身体的、社会的・精神的に統合された存在として捉え、幅広く理解し看護師としての人間関係を形成する能力を養う 2. グループ活動を通して、協調性と責任の大切さを意識できる 3. 全体行動を通して、自己の課題が持てる				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	人間関係基礎論		講義・演習	正保
2	人間関係の中の自己と他者			
3	自己認知・他者認知 対人関係と役割			
4	態度と対人行動 集団と個人			
5	集団の特性、集団での課題遂行		演習	長谷川
6	集団での問題解決、			
7	リーダーシップ(PM理論)			
8	終講試験			
備考				
<b>評価方法</b> 筆記試験50% レポート・態度評価50%				
<b>使用するテキスト</b> 医学書院 系統看護学講座 基礎分野「人間関係論」				
<b>参考文献</b>				



<b>基礎分野</b>	人間と生活・社会の理解	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	英語 I	単位数	1単位	城倉 純子(15)
		時間数	15時間 試験含む	
<b>科目全体のねらい・到達目標</b> 英文に親しみ、読解力を維持し、国際社会に適応できる語学力の基礎を身につける 1. 健康や医療、福祉に関連する英文を読み内容を理解する 2. 米国の医療語や医療に関連した米文化についての理解を深める 3. 医療・福祉に偉大な貢献をした外国の人々の業績文献に触れ、医療従事者としてのモチベーションを高める				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	1. 英語学習についてのオリエンテーション(英語と日本語、英文法の復習、筆記体ほか)		講義・演習	城倉
2	2. 「キュアとホスピタリティの英語 I」		講義・演習	
3				
4				
5				
6				
7				
8	筆記試験			
備考				
<b>評価方法</b> 筆記試験100点				
<b>使用するテキスト</b>  弓プレス「キュアとホスピタリティの英語 I」				
<b>参考文献</b>				

基礎分野	人間の生活と・社会の理解	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)	長谷川 恵子(15)
科目名	健康科学	単位数	1単位		
		時間数	15時間		
<p>科目全体のねらい・到達目標</p> <p>生涯にわたる「積極的な生活スタイルを身に着けるために自己の健康を考慮した身体運動を科学し自己管理能力を高めるよう学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯にわたる自己の健康管理とスポーツ活動を行うことができる教養と実践能力を習得する</li> <li>2. 運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る</li> <li>3. 運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動する態度を身に付ける</li> </ol>					
回	学習内容と成果	方法	担当		
1	1. 運動やスポーツにおける健康・安全の確保 2. ソフトバレーボール	講義・演習	長谷川		
2	【3F 講堂】 1. スポーツ傷害・PRICE 療法 2. 運動時における熱中症対策と応急処置				
3	1. 卓球                       2. バドミントン				
4	1. 運動適正テスト     ①立幅とび ②腕立て伏せ     ※感染対策のため ③時間往復走      上体起こしは自宅で測定				
5	1. バスケ技術練習 2. シュート成功率 3. ゲーム(1Q:3分)				
6	1. バレー技術練習(オーバー＆アンダーハンドパス・サーブ) 2. バレーボールゲーム(2コート)				
7	1. 4チーム対抗 運動会 2. 評価表まとめ				
<p>備考</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 学校指定のトレーニングウェア着用</li> <li>② 運動するのにふさわしい身だしなみ(装飾品は外す・髪の毛の長い人はまとめる)</li> <li>③ 個人の準備物:A4クリップボード・筆記用具・飲み物・タオル・アルコール除菌</li> <li>④ 体育館へはバス移動「あずま生涯学習センター体育館」</li> </ol>					
<p>評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①と②の合計点を100点換算</li> <li>① 試合結果・小テスト・授業態度を踏まえた自己評価表……140点満点</li> <li>② 運動適正テストの得点……40点満点</li> </ol>					
<p>使用するテキスト</p> <p>配布資料</p>					
<p>参考文献</p>					

<b>基礎分野</b>	人間と生活・社会の理解	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	国語文章論	単位数	1単位	飯嶋 明彦(15)
		時間数	15時間 テスト含む	
<b>科目全体のねらい・到達目標</b> 1. 言語運用とは何かを理解し、「使える日本語」を習得する 2. 母語、日本語を改めて自覚的に向き合う姿勢を確立する				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	書くことの意義		講義	飯嶋
2	文章の型 形式段落・意味段落		講義・演習	
3	文章の種類 主観的な文と客観的な文		講義・演習	
4	話す力		講義・演習	
5	挨拶、敬語の役割 敬語を使った文章			
6	伝える力		講義・演習	
7	わかりやすく伝える			
8	筆記試験			
備考				
<b>評価方法</b> 筆記試験、課題・レポートより総合的に評価				
<b>使用するテキスト</b> 実教出版 日本語表現&コミュニケーション				
<b>参考文献</b>				

専門基礎分野	人体の構造と機能	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	解剖生理学 I	単位数	1単位	鈴木 隆二 (16)
教育内容	解剖生理学の基礎 消化器/呼吸器	時間数	30時間 (試験別)	田村 孝史 (12) 砂長久枝(2)(看護師経験11年)
<b>科目全体のねらい・到達目標</b> 人体を構成する各器官の正常な構造(形態)とその形成過程及び主なはたらき(機能)を理解する 1. 人体各部位の・機関の名称と構造の特徴を説明できる 2. 各器官のはたらきを専門用語を用いて授業で扱った内容の範囲で説明できる 3. 消化器系の構造と栄養素を取り込んで利用する仕組みについて説明できる 4. 呼吸器系の構造とガス交換のしくみについて説明できる				
回	学習内容と成果	方法	担当	
1	1. 消化器系、栄養素の消化吸収 口・咽頭・食道の構造 嚥下のしくみ	講義	鈴木	
2	2. 腹部消化管の構造	講義		
3	① 胃・小腸			
4	② 肝臓・胆嚢	講義		
5	③ 大腸・肛門			
6	3. 胃・小腸に肝臓における消化吸収	講義		
7	4. 膵臓における消化	講義		
8	大腸のはたらき 肝臓のしくみ	講義 講義		
9	1.呼吸器系の構造	講義	田村	
10				
11	2..呼吸とガス交換			
12				
13	3..血液 組成 と機能 体温調節			
14				
15	看護解剖生理学演習(消化器)	演習	砂長	
備考				
評価方法 筆記試験100点				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 人体の構造と機能「解剖生理学」 南山堂「解剖学きほんノート」				
参考文献				

専門基礎分野	人体の構造と機能	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	解剖生理学Ⅱ	単位数	1単位	宮本 和宜 (20)
教育内容	循環器・生体防御 腎泌尿器 生殖・発生と老化	時間数	30時間	石井 徳恵 (2) 平野 真紀子 (8) (看護師経験6年)
科目全体のねらい・到達目標				
人体を構成する各器官の正常な構造(形態)とその形成過程及び主なはたらき(機能)を理解する				
1. 人体各部位の・機関の名称と構造の特徴を説明できる				
2. 各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる				
3. 循環器系について説明できる				
4. 生体防御機構・関連臓器について説明できる				
5. 腎臓のはたらきと泌尿器系の構造について説明できる				
6. 生殖・発生と老化のしくみを説明できる				
回	学習内容と成果	方法	担当	
1	循環器系	講義	宮本	
	心臓の構造と機能			
2	心臓の拍出機能			
3	末しょう循環器系の構造			
4	血液循環の調節			
5	リンパとリンパ管			
6	生体防御	講義	石井	
7	非特異的防御機構 特異的防御機構 免疫 関連臓器			
8	身体機能の防御と適応 代謝と運動 体温とその調節			
9	腎泌尿器 排尿調節 腎、尿管、膀胱の構造と機能 ネフロンの構造及び血流			
10	生殖・発生と老化のしくみ 男性生殖器の構造			
11	生殖・発生と老化のしくみ 女性生殖器の構造	講義	平野	
12	11. 生殖・発生と老化のしくみ	講義	平野	
13	生殖・成長と老化			
14				
15				
備考				
評価方法 筆記試験				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 人体の構造と機能「解剖生理学」 南山堂 「解剖学きほんノート」				
参考文献				

専門基礎分野	人体の構造と機能	配当時期	1年次	担当者(担当時間数)
科目名	解剖生理学Ⅲ	単位数	1単位	田村 孝史(12) 井口 俊大(16) 佐藤 二美、他(2)
教育内容	内分泌 脳神経・感覚器	時間数	30時間	
<b>科目全体のねらい・到達目標</b> 人体を構成する各器官の正常な構造(形態)とその形成過程及び主なはたらき(機能)を理解する 1. 人体各部位の・機関の名称と構造の特徴を説明できる 2. 各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる 3. 内分泌機能の調整と関連臓器について説明できる 4. 神経系の構造と機能について説明できる 5. 感覚器の構造と機能について説明できる				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	内分泌機能の調節		講義	田村
2	腺の場所と構造			
3	ホルモンの種類とはたらき1			
4	ホルモンの種類とはたらき2			
5	体液の調節と尿の生成 酸塩基平衡1			
6	体液の調節と尿の生成 酸塩基平衡2			
7	神経系の構造と機能 中枢神経と末梢神経		講義	井口
8	脳・脊髄			
9	脊髄神経と脳神経			
10	脳の高次機能			
11	運動機能と下行伝達路 感覚機能と上行伝達路			
12	感覚器1 眼の構造と視覚			
13	感覚器2 耳の構造と聴覚 平衡覚 味覚と嗅覚			
14				
15	看護解剖生理学演習(解剖見学オリエンテーション・他)		演習	佐藤
備考				
評価方法 筆記試験100%				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 人体の構造と機能 解剖生理学 南山堂「解剖学きほんノート」				
参考文献				

専門基礎分野	人体の構造と機能	配当時期	1年次	担当者（担当時間数）
科目名	解剖生理学Ⅳ	単位数	1単位	宮本 泰典(16) 原 成輝(10) 東邦大学医学部講師 佐藤二美・他(4)
教育内容	骨・筋系 解剖生理学まとめ 解剖見学	時間数	30時間	
<p>科目全体のねらい・到達目標</p> <p>人体を構成する各器官の正常な構造(形態)とその形成過程及び主なはたらき(機能)を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体各部位の・機関の名称と構造の特徴を説明できる</li> <li>2. 各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる</li> <li>3. 骨格器系や関節、人体について説明できる</li> <li>4 解剖生理学まとめ</li> <li>5 解剖見学では知識の確認だけでなく、生命倫理の基礎をつくることできる</li> </ol>				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	総論1 人体の解剖学的用語		講義	宮本
2	総論2 細胞 人体を構成する組織 腺 血液 皮膚			
3	骨格1 骨の構造、組成、形態、構造			
4	骨の形成と改変 頭蓋、体幹の骨格			
5	骨格2 上肢下肢を支える骨格			
6	骨盤の構造と性差 関節の構造と種類、運動			
7	筋肉 筋肉の種類 筋繊維の構造			
8	身体の活動に関する各部の筋肉 解剖生理学演習運動器系 体を動かすためのしくみ			
9	解剖生理学総まとめ		講義	原
10	呼吸・循環・内分泌・ホルモン・脳神経系			
11				
12				
13				
14	解剖学教室見学 検体による学習 標本による学習		講義・演習	東邦大学 医学部 佐藤
15				
備考				
評価方法 筆記試験				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 人体の構造と機能「解剖生理学」 南山堂「解剖学きほんノート」				
参考文献				

専門基礎分野	人体の構造と機能	配当時期	1年次前期	担当者（担当時間数）
科目名	生化学	単位数	1単位	戎野 棟一(30)
		時間数	30時間	
科目全体のねらい・到達目標 生物・生命現象の基礎を学び人体の機能を理解する 1. 生体を構成する物質の種類と性質を理解する 2. 生体内の物質代謝を理解する 3. 遺伝情報の保存・発現について理解する				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	生化学とは		講義	戎野
2	アミノ酸の性質 糖質の定義と種類			
3	糖質の性質			
4	脂質と核酸の種類と性質			
5	酵素			
6	糖質の代謝			
7	脂質の代謝			
8	蛋白質の代謝			
9	核酸の代謝と遺伝情報			
10	遺伝情報の発現			
11	ビタミン ホルモン			
12	体内の水と酸・塩基平衡			
13	体内の無機質の種類と役割			
14	臓器の生化学			
15	まとめ 筆記試験		試験	
備考				
評価方法 筆記試験				
使用するテキスト ヌーベルヒロカワ「わかりやすい生化学 第5版」				
参考文献				



専門基礎分野	人体の構造と機能	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
科目名	栄養学	単位数	1単位	平山 麻里子(15)
		時間数	15時間	
<p>科目全体のねらい・授業目標</p> <p>栄養や食事療法の基本的知識を修得することで人の生活や健康状態に適切な食生活の援助方法や実践できる基礎的能力を身につける</p> <p>1. 栄養学と看護の関係、栄養補給法について理解する各栄養素の体内における役割と臨床的意義を理解する</p> <p>2. 栄養素の種類とはたらき、エネルギー代謝について理解する</p> <p>3. 現在の日本における食生活の問題点を理解する</p> <p>4. 栄養状態の評価判定について理解する</p> <p>5. ライフステージと栄養について理解する</p> <p>6. 疾患を治療するためのコントロール食と、栄養管理、栄養指導の基本について学ぶ</p>				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	人間栄養学と看護		講義	平山
2	(チーム医療 地域医療における栄養ケア)			
3	生命維持のための栄養素の役割 栄養素の種類と働き		講義	
4	栄養状態の評価と判定 日常生活と栄養を理解する (食文化の多様性、日本の食生活の形成と変遷など)		GW	
5	(現代日本の健康・栄養問題)(食事アンケート分析)		講義	
6	ライフステージと栄養 疾病と栄養 療養生活と栄養(治療による回復を促すための食事を理解する)栄養成分コントロール食、糖尿病食品交換表の活用		講義・演習	
7	栄養・食事指導の基本		講義・演習	
8	筆記試験		試験	
備考				
評価方法 筆記試験 課題レポートを総合的に評価				
使用するテキスト 1. 医学書院「系統別看護学講座 専門基礎 栄養学」				
参考文献				

専門基礎分野	疾病の成り立ちと 回復の促進	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
		単位数	1単位	
科目名	微生物学	時間数	15時間 (試験含む)	西澤 智康(15)
<p>科目全体のねらい・到達目標</p> <p>微生物の特徴と生体に及ぼす影響を理解するとともに免疫及び感染症について理解を深め感染症対策の基礎的知識を養う</p> <p>1. 微生物の種類と特徴及び生体に及ぼす影響を理解する。</p> <p>2. 病原微生物による感染症について理解する</p> <p>3. 感染症対策の基本を理解する</p>				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	微生物学のあゆみ 微生物の基礎		講義	西澤
2	微生物と感染 微生物の種類・感染源の感染経路			
3	細菌学 真菌学			
4	ウイルスとプリオン			
5	主な病原微生物と感染症			
6	免疫学 ワクチン			
7	まとめ			
8	終講試験		試験	
備考				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 100点</p>				
<p>使用するテキスト</p> <p>1. 医学書院 系統看護学講座 「微生物学」</p>				
参考文献				

専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
		単位数	1単位	
科目名	病態学 I	時間数	30時間	稲垣 雅春 (4)
教育内容	呼吸器 循環器	(試験別)		田辺 裕二郎(8) 増尾真由美(2)(看護師経験8年) 岩田彩華(2)(看護師経験8年)
科目全体のねらい・達成目標:				
1. 呼吸機能障害を起こす、呼吸器疾病の病態生理を理解する				
2. 呼吸器疾患をもつ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する				
3. 循環機能障害を起こす、循環器疾患の病態生理を理解する				
4. 循環器系疾病を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	1. 呼吸器系疾患の診断と治療		講義	岡田
	①症状とその病態生理			
2	②診断・検査・治療処置			
3	③疾患の理解・呼吸器感染症			
4	・間質性肺疾患・気管支炎・気管支拡張症			
5	・慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息・呼吸不全			
6	外科的治療の適応となる主な呼吸器疾患①肺癌		講義	稲垣
7	外科的治療の適応となる主な呼吸器疾患②			
8	2. 循環器系疾患の診断と治療		講義	田辺
	①症状とその病態生理			
9	②治療・検査・処置			
10	③疾患の理解			
	・虚血性心疾患・心不全・血圧異常・不整脈			
11	・弁膜症・心膜炎・心筋疾患・先天性心疾患			
	・動脈性疾患・静脈性疾患			
12	外科的治療の適応となる主な循環器疾患		講義	岡田
13	心臓・血管手術術後患者の管理 (弁疾患・冠状動脈バイパス術)			
	リンパ系疾患			
14	看護病態学演習		演習	増尾 岩田
15				
備考				
評価方法				
筆記試験 100点				
使用するテキスト				
医学書院 系統看護学講座 成人看護学「循環器」「呼吸器」				
参考文献				

専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)	
		単位数	1単位	澤田 達男(10)	
科目名	病態学Ⅱ	時間数	30時間 (試験別)	宮本 泰典(12)	
教育内容	病理学基礎			田中 秀行(2)	
内山 聡(4) 吉田友子(2)(看護師経験21年)					
<b>科目全体のねらい・到達目標</b> 臓器、組織、細胞の変化としての病変について学習し疾病の成り立ちや症状を理解する 系統別疾患について、臓器系特有の症状をとらえ病態生理、治療、検査について理解する 1. 病理学の基本的役割と目標、疾病に関する基本的な概念を理解し、病理学総論の知識を取得する 2. 運動機能障害を起こす、運動器疾病の病態生理を理解する 3. 運動器疾患をもつ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し検査・治療の方法を理解する 4. 乳腺の疾患と治療・検査(乳腺炎・乳腺症・乳癌)を理解する 5. 口腔硬組織(歯牙)軟組織の解剖の基礎知識を知り口腔領域疾患の病態生理を理解する 6. 口腔疾患を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する					
回	学習内容と成果			方法	担当
1	病理学とは、			講義	澤田
2	循環器障害 代謝障害				
3	炎症と免疫、膠原病				
4	感染症 先天異常				
5	腫瘍				
6	運動器系疾患の診断と治療 先天性疾患			講義	宮本
7	骨折・脱臼・捻挫・骨粗しょう症				
8	骨・関節の炎症性疾患変形性関節症				
9	骨腫瘍・軟部腫瘍				
10	筋及び腱の疾患 筋ジストロフィー				
11					
12	乳腺の疾患と治療・検査(乳腺炎・乳腺症・乳癌)			講義	田中
13	歯科・口腔系の疾患・検査・治療			講義	内山
14	各疾患の理解齶歯 歯周病 口腔外科 口蓋裂				
15	看護病態学演習			演習	吉田
備考					
評価方法					
筆記試験 100点					
使用するテキスト					
医学書院 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進「病理学」					
成人看護学「消化器」「歯・口腔」別巻「臨床外科各論」					
参考文献					

専門基礎分野	疾病の成り立ちと 回復の促進	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
		単位数	1単位	吉田 正 (18)
科目名	病態学Ⅲ	時間数	30時間 (試験別)	宮本 和宜 (10)
教育内容	消化器系疾患 栄養代謝 腎疾患			砂長 久枝 (2) (看護師経験 11年)
<p>科目全体のねらい・到達目標</p> <p>系統別疾患について、臓器系特有の症状をとらえ病態生理、治療、検査について学習し、疾病の成り立ちや症状を理解する</p> <p>2. 消化器機能障害を起こす、消化器疾病の病態生理を理解する</p> <p>3. 消化器疾患をもつ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する</p> <p>4. 腎機能障害を起こす、腎疾患の病態生理を理解する</p> <p>5. 腎疾患を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する+</p> <p>5. 栄養・代謝機能障害をおこす、栄養・代謝疾患の病態生理を理解する</p> <p>6. 栄養代謝系疾病を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する</p>				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	1—1消化器系疾患の診断と治療 1) 食道の疾患		講義	吉田
2	2) 胃・十二指腸の疾患 3) 小腸・大腸の疾患			
3	4) 肝臓・胆嚢の疾患 5) 腸及び腹膜疾患			
4	2—2外科的治療の適応となる主な消化器疾患			
5	1) 食道癌・胃癌			
6	2) 膵臓癌・胆嚢胆管癌・肝臓癌			
7	3) 大腸癌・直腸癌・腸閉塞・腹膜炎5. 栄養・代謝疾患の主要症状			
8	と病態生理 検査・治療			
9	疾患の理解 糖尿病 脂質異常症・肥満症・痛風			
10	腎疾患		講義	宮本
11	1) 腎不全・慢性腎不全・慢性腎臓病			
12	2) ネフローゼ症候群・糸球体腎炎・腎障害			
13	3) 尿細管間質性腎炎・腎血管病変・尿細管機能異常泌尿器系疾患			
14	病態生理、症状 治療、検査 1) 尿路結石・尿路感染症 2) 前立腺肥大症3) 膀胱癌・睾丸腫瘍			
15	看護病態学演習		演習	砂長
備考				
評価方法 筆記試験				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 成人看護学「消化器」「腎・泌尿器」				
参考文献				

(実務経験のある教員等による授業科目)

専門基礎分野	疾病の成り立ちと	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
	回復の促進	単位数	1単位	
科目名	病態学区	時間数	15時間 (試験含む)	須磨崎 加寿子(6)
教育内容	老年期疾患・治療			岡田 浩介 (4)
				宮本 泰典 (2)
				塚本 浩平 (2)
				平野真紀子(1)(看護師経験6年)
<p>科目全体のねらい・到達目標</p> <p>高齢者の疾患と特徴</p> <p>1. 老年期によくみられる機能障害について身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、検査・治療の方法を理解する</p> <p>2. 老年期に特徴的な疾患の病態生理を説明することができる</p> <p>3. 高齢者に対する治療と予防の概念、看護活動の基本を説明することができる</p>				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	<p>1. 認知機能障害のある高齢者</p> <p>1)うつ</p> <p>①うつ病とは ②臨床的特徴</p> <p>2)せん妄</p> <p>①せん妄とは ②臨床的特徴</p>		講義	須磨崎
2	<p>3)認知症</p> <p>①認知症とは ②認知症の症状</p>			
3	<p>③認知症の病態・診断・治療④認知機能および生活機能の評価</p>			
4	<p>老年症候群 呼吸器・循環器</p>		講義	岡田
5				
6	<p>高齢者の疾患の特徴 運動器</p>		講義	宮本
7	<p>高齢者のリハビリテーション</p>		講義・演習	塚本
8	<p>終講試験</p>			平野
備考				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 100点</p>				
<p>使用するテキスト</p> <p>医学書院 系統看護学講座 老年看護学「老年看護学病態・疾患論」</p> <p>別巻「リハビリテーション看護」</p>				
参考文献				

専門基礎分野	疾病の成り立ちと	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
	回復の促進	単位数	1単位	
科目名	薬理学	時間数	15時間 (試験含む)	佐藤 真弓 (8) 来栖 理恵 (7)
<p>科目全体のねらい・到達目標</p> <p>薬物療法の適正な使用法、安全な薬物療法のための基礎的知識を養う</p> <p>1. 薬理学の基礎知識を理解する</p> <p>2. 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について理解する</p>				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	<p>薬理学を学ぶにあたって</p> <p>① 薬物による病気の治療 (薬物とはなにか・薬物の使用目的・薬物療法における看護師の役割)</p>		講義	佐藤
2	② 薬理学とはなにか			
3	<p>薬が作用するしくみ(薬力学)</p> <p>① 薬物受容体 (受容体の種類・受容体と薬物の相互作用)</p>		講義	来栖
4	<p>② イオンチャンネル</p> <p>③ 酵素</p> <p>④ トランスポーター</p>			
5	<p>薬の体内挙動(薬物動態学)</p>		講義	佐藤
6	<p>① 体内動態(吸収、分布、代謝、排泄)</p> <p>② 薬物の相互作用</p> <p>③ 治療において重要となる薬物動態の指標 (血中濃度と半減期、耐性と依存、薬物の効果に対する因子、薬物使用の有益性と危険性)</p> <p>④ 薬物の投与経路(経口、非経口)</p>			
7	<p>薬と法律</p> <p>① 医薬品に関する法律(劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・覚せい剤)</p> <p>② 新薬の開発</p> <p>消毒薬とは</p> <p>① 消毒薬の種類と応用</p> <p>消毒薬の適応</p>			
8	終講テスト45分			
備考				
評価方法				
筆記試験 100点				
使用するテキスト				
1. 医学書院 系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復の促進「薬理学」				
参考文献				

(実務経験のある教員等による授業科目)

専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	医療概論	単位数	1単位	宮本 二郎(6) 岡本 泰子(9) (看護師経験 27年)
		時間数	15時間	
科目全体のねらい・到達目標 1. 医療の発達の背景とその変遷を理解する 2. 保健医療に携わる者として今日の医療の現状について理解する 3. 最新の医療について知り、医の倫理を看護師として考える				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	医学と医療		講義	宮本
2	医学の歴史			
3	医学と医療の違い 科学技術の進歩と現代医療 現代医療の新たな課題			
4	生命の価値・生活の質・死生学		講義・GW	岡本
5	生活と健康(健康とは・ヘルスプロモーション)社会と健康			
6	老いと向き合う			
7	保健・医療・介護切れ目のないサポート			
8	筆記試験			
備考				
評価方法 筆記試験100点				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度「医療概論」				
参考文献				



(実務経験のある教員等による授業科目)

専門基礎分野	健康支援と社会保障制度	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	地域理解演習	単位数	1単位	増尾 真由美(15) (看護師経験8年)
		時間数	15時間 (試験含む)	
科目全体のねらい・到達目標 「安心して暮らせる やさしいまち 稲敷」を実現するための取り組みとそこで暮らしている人々の暮らしを知る。				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	人々が暮らしを営む「稲敷」とは 第2次稲敷市地域福祉計画について(稲敷市の福祉を知る)		講義 グループワーク	増尾
2	演習準備			
3	演習(8時間)		演習	
4	グループごとの計画をもとに事業を見学することで「安心して暮らせる やさしいまち 稲敷」を実現するための「自助」「共助」「公助」			
5	の現状を把握する。			
6	また、行われている事業に参加している人とコミュニケーションをとり、住民のニーズや困りごとを知る。			
7	グループ発表 (4時間)		発表	
8				
備考				
評価方法 課題(レポート)				
使用するテキスト 指定なし。				
参考文献				

専門分野	基礎看護学	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)	
科目名	看護学概論	単位数	1単位	岡本 泰子(30)	(看護師経験 27年)
		時間数	30時間		
科目全体のねらい・到達目標 1. 看護とは何かを探求し続けるための基本的な考え方を身に着ける 2. 看護の歴史の変遷をたどりながら看護の現状や課題を説明できる 3. 看護の対象を人間・環境・生活の視点から理解することができる。 4. 看護学における倫理の考え方や実践における倫理の重要性について述べるができる 5. 保健医療福祉分野の連携の中で、看護の独自性や役割について意見を述べるができる					
回	学習内容		方法	担当	
1	看護の概念(看護とは何かを学習する)		講義・GW	岡本	
2	看護における倫理		講義・GW		
3	看護の変遷(変遷をたどりながら看護とは何かを学習する)		講義・GW		
4	日本における近代看護・公衆衛生看護の発展		レポート①		
5	看護の対象の理解 (人間を統合体として認識する事を学ぶ・生活と健康を守るとは) 看護の現象を理解するための理論(基本的欲求・発達理論・危機理論 ストレスコーピング)		講義・GW		
6	看護の行われる場(看護はどこで必要とされるのか)		講義/GW		
7	看護における法的側面(法の内容・保健師助産師看護師法)		講義・演習		
8	看護についての主要な考え方・概念(看護に有用な理論・概念)		講義・GW		
9	ナイチンゲール・ヘンダーソン・オレム・他		レポート②		
10	看護理論の重要性(理論をどのように活用するか)				
11	看護提供の仕組み(チーム医療・協働・連携)		講義		
12	医療福祉サービスの中での看護職の役割		講義		
13	これからの看護の課題と展望看護提供の仕組み		レポート③		
14	ヘンダーソン理論				
15	まとめ 筆記試験				
備考					
評価方法 筆記試験 60% 課題提出・グループ討議参加状況 40%					
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学「看護学概論」、日本看護協会出版「看護師倫理綱領」 日本看護協会出版「看護の基本となるもの」、メディカ出版「やさしい看護理論改訂2版」 現代社「ナイチンゲール看護論入門」「看護覚え書」					
参考文献					

(実務経験のある教員等による授業科目)

専門分野	基礎看護学	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	看護技術 I	単位数	1単位	野原 恵美(2)(看護師経験11年)
教育内容	共通基本技術 (技術とは、コミュニケーション、感染対策技術)	時間数	30時間	砂長 久枝(16)(看護師経験11年) 高城 利恵(12)(看護師経験13年)
科目全体のねらい・到達目標				
1. 看護技術を看護実践の中で活用すること意義と看護実践の基盤となる考え方を学ぶ				
2. 看護の場におけるコミュニケーションのあり方について学び、コミュニケーション技術の実践への活用方法を理解する				
3. 医療安全に関する基本的な知識・技術(感染対策)について学ぶ				
4. 患者と自己の安全を守るための基本的な知識・技術を習得する				
回	学習内容と成果	方法	担当	
1	技術とは 知識・技術・技能の関連 看護技術の独自性 看護実践とクリティカルシンキング 技術習得の過程	講義・演習	野原	
2	コミュニケーションとは	講義	砂長	
3	コミュニケーションの種類 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション	講義		
4	医療におけるコミュニケーション 看護面接	講義・演習		
5	良好なコミュニケーションに必要な技法 質問技法	講義・演習		
6	積極的傾聴と共感	講義		
7	良好なコミュニケーションに必要な技法 関係構築の技法	講義・演習		
8	プロセスレコード	講義・演習		
9	アサーティブなコミュニケーション	講義		
10	感染防止の基本的知識 看護師が感染防止する意義 感染経路 感染予防策	講義		
11	スタンダードプリコーション 標準予防策 個人防護用具 手指衛生	講義・演習		
12	手洗い・手指消毒の実際	講義・演習		
13	個人防護具の着脱方法 感染性医療廃棄物の取り扱い	演習		
14	滅菌・消毒・洗浄とは 操作方法	講義・演習		
15	無菌操作	講義・演習		
備考				
評価方法 終講試験70点 課題 20点 演習態度 10点				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I 医学書院 看護コミュニケーション				
参考文献				

専門分野	基礎看護学	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)	
科目名	看護技術Ⅱ	単位数	1単位	岩田 彩華	
教育内容	共通基本技術 (観察・記録・報告、学習支援、バイタルサイン)	時間数	30時間	(看護師経験8年) (30) 他教員	
科目全体のねらい・到達目標					
1. 看護における観察・記録・報告の意義を学び、効果的な技術を習得する					
2. 看護における学習支援の意義を学び、効果的な教育・指導技術を習得する					
看護のバイタルサインの意義を理解し、その観察方法と測定技術を習得する					
回	学習内容と成果		方法	担当	
1	観察とは 看護過程とクリティカルシンキング		講義	岩田	
2	看護過程の各段階 観察の意義 情報の種類(S・O 情報)		講義		
3	観察の技術 バイタルサインとは		講義・演習		
4	バイタルサインの観察とアセスメント～基本的知識と技術～ 体温測定・脈拍測定・呼吸数・血圧測定・意識レベル		講義・演習		
5	バイタルサイン技術確認		講義・演習		
6	"		講義・演習		
7	バイタルサイン測定技術試験		技術試験		
8	"		"		
9	アセスメントとは アセスメントの枠組 (ヘンダーソン 14 項目)		講義 (GW)		
10	看護記録とは 個人情報保護法 守秘義務・法的責任について		講義		
11	報告とは 意義・目的・方法・留意点		講義		
12	看護記録の実際 データベース フローシート 経過記録 看護要約		講義	岩田	
13	看護における学習支援 ①健康に過ごすための教育・指導		講義	岩田	
14	看護における学習支援 ②健康状態に伴う学習支援 外来・入院時・退院時		講義 (GW)	岩田	
15	個人指導・家族指導・集団指導		講義 (GW)	岩田	
備考					
評価方法 筆記試験70%、技術試験20%、態度面10%					
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ					
参考文献					

専門分野	基礎看護学	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	看護技術Ⅳ	単位数	1単位	岩田 彩華(24)(看護師経験8年)
教育内容	活動と休息・褥法	時間数	30時間	後藤久美子(2)(看護師経験6年) 塚本 浩平(4)
科目全体のねらい・到達目標 1. 看護における活動・休息の意義を理解できる 2. 対象を生活者と捉え、必要な援助方法を判断し安全・安楽に行える看護技術を習得する 3. 褥法の目的・生体への影響を学び効果的な褥法の方法を習得する				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	活動・運動の基礎知識	アセスメントと援助方法	講義	岩田
2	休息・睡眠の基礎知識	アセスメントと援助方法	講義	
3	ボディメカニクス 人間工学の基礎知識 安楽な体位(ポジショニング) 同一体位による弊害		講義 演習	
4	"		"	
5	体位と移動の基礎知識 体位変換のアセスメント・援助方法		講義	
6	体位と移動の援助方法 安全・安楽な体位変換・保持		演習	
7	移動(歩行・移乗・移送)の基礎知識	杖・車椅子・ストレッチャー	講義	
8	移動(歩行・杖歩行・歩行器)介助1	事例の活用	演習	
9	移動介助	事例の発表	講義・演習	
10	移動(歩行・杖歩行・歩行器)介助2	事例の活用	"	
11	移動介助	事例の発表	講義	
12	移乗介助の確認		演習	
13	関節可動域(ROM) 良肢位 運動障害がある患者への移乗技術		演習	塚本
14	"		演習	
15	褥法とは	目的・方法・留意点	演習	後藤
備考				
評価方法 後藤・塚本:筆記試験各10点 吉田:筆記試験 65点 課題 10点 演習態度 5点				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版				
参考文献				

(実務経験のある教員等による授業科目)

専門分野	基礎看護学	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	看護技術Ⅴ	単位数	1単位	野原 恵美(10)(看護師経験11年)
教育内容	病床環境 衣生活・身体の清潔	時間数	30時間	高城 利恵(20)(看護師経験13年)
<b>科目全体のねらい・到達目標</b> 1. 看護における環境の捉え方の視点を理解する 2. 環境条件を理解し、安全・安楽・自立を考えた環境の調整方法について理解する 3. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔の効果と全身への影響を理解する 4. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助の基礎知識と実際を学ぶ 5. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、援助の実際と寝衣交換の手順を学ぶ				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	環境とは	人と環境 療養生活と環境	講義	野原
2	健康生活の維持・増進や疾病の回復のための生活環境のアセスメント 入院生活における病床環境の調整、整備の方法	講義		
3	ベッドメイキング	演習		
4	臥床患者のシーツ交換	演習		
5	〃	〃		
6	清潔援助 清潔の援助の基礎知識 皮膚・粘膜の構造と機能 清潔援助の効果 患者に応じた援助の決定と留意点	講義	高城	
7	入浴・シャワー浴	全身清拭	演習	高城
8	〃	〃		
9	洗髪	〃		
10	手浴・足浴とフットケア	〃		
11	整容	口腔ケア	〃	
12	病床での衣生活援助	衣服を用いることの意義 病衣の選び方 病衣・寝衣の交換	講義	
13	事例展開(全身清拭)	患者をアセスメントし、援助方法を考える	GW	
14	〃	〃	〃	
15	終講テスト			
備考				
評価方法 筆記試験50点 課題、演習態度50点				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ				
参考文献				

専門分野	基礎看護学	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)	
科目名	看護技術VI	単位数	1単位	古畑 貴子(30) (看護師経験 14年)	
教育内容	栄養と食事 排泄	時間数	30時間		
科目全体のねらい・到達目標					
1. 人間にとっての栄養と食事の意義を理解する					
2. 栄養状態及び摂食能力のアセスメント方法を理解する					
3. 健康レベルや食行動の自立度に応じた食事と栄養摂取方法を考え、効果的な援助方法を習得する					
4. 人間にとっての排泄の意義を理解する					
5. 排尿・排便に関するメカニズム・アセスメント方法を理解し、対象者に応じた排泄援助を習得する					
6. 食事・排泄の援助について看護の基本姿勢や役割について理解する					
回	学習内容と成果			方法	担当
1	食事とは 栄養と食事の意義			講義	古畑
2	食事援助の基本 栄養状態のアセスメント 水分・電解質バランスのアセスメント 摂食・嚥下のアセスメント			講義	
3	食生活変更の必要性 患者認識・行動のアセスメント 経口摂取・嚥下訓練等			講義	
4	食事介助 麻痺患者・嚥下機能障害・視覚障害のある患者への食事介助			演習	
5	"			"	
6	非経口栄養法 経腸栄養・静脈栄養			演習	
7	経管栄養法 胃管挿入・固定・確認方法 滴下数の計算方法 栄養剤注入の方法			演習	
8	"			"	
9	排泄とは 排泄の意義 メカニズムとアセスメント方法			講義	
10	失禁とは 失禁の種類と援助方法			講義	
11	床上排泄援助 便器・尿器・オムツ交換 ポータブルトイレ			演習	
12	"			"	
13	浣腸・摘便			演習	
14	導尿 一時的導尿・持続的導尿			"	
15	まとめ・終講テスト			試験	
備考					
評価方法 筆記試験60%、課題20% 演習態度20%					
使用するテキスト 医学書院 系統別看護講座 基礎看護学 基礎看護技術 I・II					
参考文献					

(実務経験のある教員等による授業科目)

専門分野	基礎看護学	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)
科目名	臨床看護総論	単位数	1単位	増尾真由美(15) (看護師経験8年)
教育内容		時間数	15時間(7回)	他教員
科目全体のねらい・到達目標 1. 看護の対象を理解する 2. 経過別看護、主要症状を示す患者の看護、治療・処置・検査を受ける患者の看護について事例を用いて理解する シミュレーション学習を行うことで患者の状況に応じた看護を実践するための基礎的能力を養う				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	臨床看護学総論とは 看護とは		講義	増尾
2	事例 シミュレーション学習とは 事前課題		各自学習	増尾
3	臨床看護総論を理解するための 事例①		講義	増尾
4	シミュレーション学習 グループワーク ロールプレイ 発表 デブリーフィング		シミュレーション学習	教員
5	"		"	"
6	"		"	"
7	まとめ			増尾
	終講テスト		試験	
備考				
評価方法 筆記試験30点 課題20点、演習50点				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学「臨床看護総論」				
参考文献				



(実務経験のある教員等による授業科目)

専門分野	地域・在宅看護論	配当時期	1年次前期	担当者(担当時間数)	
科目名	地域・在宅看護論概論	単位数	1単位	増尾 真由美(15) (看護師経験8年)	
教育内容		時間数	15時間		
科目全体のねらい・到達目標 地域で暮らす全ての人々の健康と暮らしを支える看護の役割を考える基盤とする 地域に暮らす人々の暮らしを理解する。 人々の暮らしを支える地域包括ケアシステムと地域共生社会について理解する					
回	学習内容と成果			方法	担当
1	1. 人々の暮らしと地域・在宅看護論			講義 演習 グループワーク	増尾
2	①人々の暮らしの理解				
3	②地域・在宅看護の役割				
4					
5	2.暮らしの基盤としての地域の理解				
6	①暮らしと地域のかかわり				
7	②暮らしと地域を理解するための考え方				
	3.地域包括ケアシステムと地域共生社会				
	①地域包括ケアシステム				
	②地域共生社会				
8	筆記試験				
備考					
評価方法 筆記試験、レポート					
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座「地域・在宅看護の基礎」「地域・在宅看護の実践」					
参考文献					

専門分野	地域・在宅看護論	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ	単位数	1単位	増尾 真由美(26) (看護師経験8年) 和田 聖子(4)
教育内容	地域・在宅看護の対象 暮らしを支える看護・制度など	時間数	30時間	
科目全体のねらい・到達目標 地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する。 地域・在宅看護の対象と様々な場、暮らしを支える看護について理解する。				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	1 地域・在宅看護の対象		講義 グループワーク 演習	増尾 和田
2	①地域・在宅看護の対象者			
3	②家族の理解			
4	③地域に暮らす対象者の理解と看護			
5	2 地域における暮らしを支える看護			
6	①暮らしを支える地域・在宅看護			
7	②暮らしの環境を整える看護			
8	③広がる看護の対象と提供方法			
9	④地域における家族への看護			
10	⑤地域・在宅看護におけるライフステージに応じた看護			
11	⑥地域での暮らしにおけるリスクの理解			
12	⑦地域での暮らしにおける災害対策			
13	3 地域・在宅看護実践の場と連携			
14	①さまざまな場、さまざまな職種で支える地域の暮らし			
15	②おもな地域・在宅看護実践の場 ③地域・在宅看護における多職種連携			
	4 地域・在宅看護にかかわる制度とその活用			
	筆記試験			
備考				
評価方法 筆記試験100点				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 「地域・在宅看護の基礎」「地域・在宅看護の実践」				
参考文献				

専門分野	成人看護学	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)	
科目名	成人看護学概論	単位数	1単位	吉田 友子(30)	
教育内容		時間数	30時間	(看護師経験 21年)	
<p>科目全体のねらい・到達目標</p> <p>成人期にある対象を理解し、健康問題とその看護方法を学ぶ成人期にある対象を理解し、健康問題とその看護方法を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期における対象の特徴を理解できる</li> <li>2. 生活習慣やライフステージと健康問題との関連を理解できる</li> <li>3. 経過別に応じた看護の基本となる考え方や方法論について理解できる</li> <li>4. 成人学習の概念と行動変容を促す看護アプローチについて理解できる</li> <li>5. 看護と社会資源について理解できる</li> </ol>					
回	学習内容と成果			方法	担当
1	成人期の特徴(身体・心理・社会)			講義・演習	吉田
2	成人期の特徴(ライフステージ・発達段階)			講義	
3	成人期にある人の生活から捉える健康			講義	
4	生活と健康を守るシステム			講義・演習	
5	健康レベル			講義・演習	
6	成人期に活用できる看護理論(アンドラゴジーモデル、人間関係論、ヘルスプロモーション)			講義	
7	急激な健康破綻に陥った人の特徴と看護			講義	
8	急激な健康破綻に陥った人への看護理論の活用			講義・演習	
9	慢性病患者の特徴と看護			講義	
10	慢性病患者への看護理論の活用			講義・演習	
11	障害がある人特徴と看護			講義	
12	終末期を支える看護			講義	
13	療養の場の移行に伴う看護援助			講義・演習	
14	退院支援			講義・演習	
15	終講テスト			試験	
備考					
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 80点、課題 20点</p>					
<p>使用するテキスト</p> <p>医学書院 系統看護学講座 成人看護学[1]「成人看護学概論」</p>					
参考文献					

(実務経験のある教員等による授業科目)

専門分野	成人看護学	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
科目名	成人援助論 I	単位数	1単位	増尾真由美(14)(看護師経験8年) 井上 桂輔 (2) 吉田 友子(10)(看護師経験21年) 岩田 彩華(4)(看護師経験8年)
教育内容	呼吸器疾患の看護	時間数	30時間	
科目全体のねらい・到達目標 1. 各疾患患者の特徴と看護の役割を理解する 2. 各疾患患者の主な検査・治療・処置に伴う看護を理解する 3. 各疾患患者の日常生活活動のアセスメント方法を理解する 4. 各疾患患者のそれぞれの年齢に応じた看護問題から看護援助へのプロセスを理解する				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	呼吸器疾患患者の基礎知識		講義	増尾
2	呼吸器症状とその看護			
3	呼吸器疾患患者の検査と治療の看護			
4	呼吸器疾患の看護(間質性肺疾患)			
5	呼吸器疾患の看護(慢性閉塞性肺疾患)			
6	肺疾患患者の看護(事例検討・退院支援)			
7				
8	呼吸リハビリテーションについて		講義	井上
9	運動器疾患患者の基礎知識		講義	吉田
10	運動器症状とその看護		講義	
11	運動器疾患患者の検査と治療の看護		講義	
12	運動器疾患の看護(大腿骨骨折・脊髄損傷)		講義	
13	運動器疾患患者の看護(事例検討・退院支援)		講義	
14	ヘルスアセスメント		演習	岩田
15				
備考				
評価方法 筆記試験 100点				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[呼吸器]、[運動器]				
参考文献				

専門分野	成人看護学	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
科目名	成人援助論Ⅱ	単位数	1単位	砂長久枝(16)(看護師経験11年)
	消化器疾患の看護	時間数	30時間	渡邊 恵美子(4) 磯山由紀子(8) 岩田 彩華(2)(看護師経験8年)
<b>科目全体のねらい・到達目標</b> 1. 各疾患患者の特徴と看護の役割を理解する 2. 各疾患患者の主な検査・治療・処置に伴う看護を理解する 3. 各疾患患者の日常生活活動のアセスメント方法を理解する 4. 各疾患患者のそれぞれの年齢に応じた看護問題から看護援助へのプロセスを理解する				
回	学習内容と成果	方法	担当	
1	消化器疾患患者の基礎知識	講義	砂長	
2	消化器症状とその看護	講義		
3	消化器疾患患者の検査と治療の看護	講義		
4	消化器疾患の看護(胃癌)	講義		
5	消化器疾患の看護(大腸癌)	講義		
6	栄養・代謝疾患患者の看護	講義		
7	消化器外科の看護	講義・演習		
8	消化器疾患の看護(事例検討・退院支援)45分			
9	腎臓器疾患患者の基礎知識	講義	磯山	
10	腎臓器症状とその看護	講義		
11	腎臓器疾患患者の検査と治療の看護	講義		
12	腎臓器疾患の看護(腎不全)	講義・演習		
13	内分泌・代謝患者の看護(糖尿病)	講義・演習	渡邊	
14	内分泌・代謝患者の看護(糖尿病)	講義・演習		
15	ヘルスアセスメント	演習	岩田	
	終講テスト 45分		砂長	
備考				
評価方法 筆記試験 100点				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 成人看護学「消化器」、[内分泌・代謝]、[腎・泌尿器]				
参考文献				

(実務経験のある教員等による授業科目)

専門分野	老年看護学	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
科目名	老年看護学概論	単位数	1単位	高城 利恵(30)
教育内容		時間数	30時間	(看護師経験 13年)
<p>科目全体のねらい・到達目標</p> <p>老年期にある対象と家族、生活環境、ヘルスケアシステムについて理解し、老化と疾患・障害の程度に応じた看護の役割と機能について学ぶ</p>				
回	学習内容と成果	方法	担当	
1	老いるということ、老いを生きるということ	講義	高城	
2	老年期の発達段階	講義		
3	超高齢化社会と社会保障	GW		
4	超高齢者社会と社会保障	GW		
5	高齢者の権利擁護	講義		
6	老年看護の成りたち	講義		
7	老年看護の役割	講義		
8	老年期の特徴 老年体験をしてみよう	演習		
9				
10	老年期の特徴 視聴機能体験	演習		
11	高齢者の虐待と身体拘束 高齢者の権利擁護 視聴覚教材 GW	演習		
12				
13	加齢におこる生活の変化 ロールプレイ	演習		
14				
15	まとめ・筆記試験	試験		
備考				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 70点、課題・GW30点</p>				
<p>使用するテキスト</p> <p>医学書院 系統看護学講座 老年看護学「老年看護学」</p>				
参考文献				

(実務経験のある教員等による授業科目)

専門分野	老年看護学	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
科目名	老年援助論Ⅰ	単位数	1単位	高城 利恵 (11)
教育内容	老年期の疾患 高齢者のヘルスアセスメント	時間数	15時間	(看護師経験13年) 須磨崎 加寿子(4)
<p>科目全体のねらい・到達目標</p> <p>高齢社会と社会保障、保健医療福祉制度について理解する 高齢者のヘルスアセスメントの実際を学ぶ</p>				
回	学習内容と成果	方法	担当	
1	高齢社会と社会保障	講義	須磨崎	
2	保健医療福祉制度の変遷	講義		
3	老年看護に求められるものとは	講義	高城	
4	生活・療養の場における看護	講義		
5	治療を必要とする高齢者と家族の看護①	講義・演習		
6	治療を必要とする高齢者と家族の看護②	講義・演習		
7	治療を必要とする高齢者と家族の看護③	講義		
8	筆記試験	試験		
備考				
<p>評価方法</p> <p>筆記試験 100点</p>				
<p>使用するテキスト</p> <p>医学書院 系統看護学講座「老年看護学」、 「老年看護学病態・疾患論」</p>				
参考文献				

専門分野	精神看護学	配当時期	1年次後期	担当者(担当時間数)
科目名	精神看護学概論	単位数	1単位	宮本 真理(12) 石井 竜介(6) 古畑貴子(12)(看護師経験14年)
		時間数	30時間	
教育内容	精神保健・概論			
<b>科目全体のねらい・到達目標</b> 精神の心の健康を維持増進するために、心の構造(自我の働きと防衛規制)を理解し、自己概念がどのように形成されていくかについて学ぶ。また、精神看護の考え方を理解し、対象の理解を深める方法について学習する 1. 精神保健とは何かを理解する 2. 適応と危機について学ぶ 3. 患者—看護師関係の理論について学ぶ 4. 精神看護における看護の役割を理解する 5. 自己の振り返り方法としてのプロセスレコードについて理解する 6. 精神保健福祉の歴史について学び考える				
回	学習内容と成果		方法	担当
1	1. 精神の健康と障害 1) 健康概念・予防・法律 2) 社会病的現症		講義	宮本
2	2. 生活の場と精神保健 1) 家庭 2) 学校 3) 職場 4) 地域 5) 医療現場		講義	
3	3. 心の危機とストレス 1) 危機理論とストレス理論		講義	
4	2) ストレスへの対処(コーピング) 3) ストレスとしての心的外傷(トラウマ)		講義	
5	4) 災害時の精神医療活動		講義	
6	4. 精神医療の歴史と法律		講義	
7	心のはたらきと人格形成		講義	石井
8				
9	発達心理と精神			
10	5. 精神(心)を病むということ(メンタルヘルス)		講義	古畑
11	7. 人間関係の看護理論		講義	
12	8. ケアの人間関係			
13	患者—看護師関係の構築(プロセスレコード)		プロセスレコード演習	
14				
15	まとめ・筆記試験			
備考				
評価方法 筆記試験 80点、課題・プロセスレコード 20点				
使用するテキスト 医学書院 系統看護学講座 精神看護学「精神看護の基礎」「精神看護の展開」				
参考文献				